

グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際教育研究拠点」  
「ヨーロッパ／非ヨーロッパ—東欧の現代文学」  
第三回共同研究会（公開ワークショップ）

<報告 1>

イスマイル・カダレ『怪物』における  
ホメーロスの世界  
広島文教女子大学非常勤講師  
井浦 伊知郎

イスマイル・カダレは『死せる軍隊の将軍』や『誰がドルンチナを連れ戻したか』など数多くの作品で、社会主義時代から現在を通じて国際的に最も評価されているアルバニアの作家である。そのカダレの初期の小説『怪物（Përbindëshi）』は、1965年に雑誌掲載された直後に発行禁止となり、以後、1990年までの四半世紀にわたって公表されなかった。後に発展する神話的・幻想的作品世界のプロトタイプとも言え、様々の興味深い試みが見られるにもかかわらず、上述の事情や、他作品に比べてさほど多くの言語に翻訳されていないこともあってか、十分に研究されているとは言いがたい。本発表ではこの『怪物』で描かれるトロイア戦争の描写に焦点を絞って考察する。併せて、カダレを含むアルバニアの作家・文学事情についても可能な限り概観したい。

日時 2008年11月20日（木）16:30-18:30  
会場 大阪大学大学院文学研究科（豊中キャンパス）  
人文社会科学棟 217（参加無料）

<http://www.osaka-u.ac.jp/ip/annai/about/map/toyonaka.html> に地図があります

問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 事務局

e-mail [gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp)

電話 06-6879-4046

<報告 2>

ミロ斯拉ヴ・クルレジャとは  
何者であるか  
大阪大学非常勤講師  
荒島 浩雅

1933年4月、「ミロ斯拉ヴ・クルレジャとは何者であるか」と大書した張り紙がザグレブの街頭に張り出された。クルレジャの言動を糾弾し、近く予定されていたこの作家の講演会をボイコットせよという内容。即刻、ツェサレツ、ヘゲドゥシチら有識者有志がこの出所不明のポスターを非難する緊急アピールを発表するも講演会は中止といった、ちょっとした事件がおこった。問題の張り紙があげられていたのは『クロアチア文学のウソ』という、クルレジャが1919年に発表したテキストであった。報告では、1933年のこの小事件をイントロダクションに『クロアチア文学のウソ』というテキストそのものを紹介しつつ、このテキストをもって言論界にセンセーショナルな登場を果たし広汎な執筆活動を展開していったクルレジャという作家を考える。

【報告者略歴は裏面をご参照ください】

## 【報告者略歴】

### 井浦伊知郎（いうら いちろう）

1998年3月、広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。1998年－2001年、日本学術振興会特別研究員（人文社会系）。博士（文学）。専門はアルバニア語学、バルカン言語学。著書に『国際都市ティラナ』（社会評論社、近刊）、『バルカンを知るための65章』（共著、明石書店2005）。主要論文は“Zu den Funktionen der verdoppelten Personalpronomina innerhalb der Relativsätze in den Balkansprachen”（Albanologische und balkanologische Studien, 2005, Verlag Dr.Kovač）、「バルカン歴史教科書の比較研究：アルバニア近代史の場合」（『広島文教女子大学紀要』41、2006）など。

### 荒島浩雅（あらしま ひろまさ）

早大独文専修在学中の1986-1989年、ザグレブ大学文学部に留学。1993年、大阪大学大学院言語文化研究科博士課程前期課程修了、1998年同大学院後期課程単位取得退学。専門はクロアチアセルビア語の文学およびドイツ語の文学。